「復活日のためのメッセージ」

福岡聖パウロ教会　司祭　牛島幹夫

イースターおめでとうございます。

イースターは教会で一番大切な日です。私は、司祭に按手されて１７年、イースターの礼拝の時には必ず「もし、１年に一度だけしか礼拝に行けないということになったら、是非イースターに来ることを選んでください。なぜなら、この日が最も大切な日だからです。」と語ってきました。ですから、今年イースターの礼拝に来ないでくださいと案内せねばならなかったことに、大きな戸惑いを覚えています。きっと、このメッセージを読む人達も同じことと思います。

聖パウロは、「キリストが復活しなかったのなら、わたしたちの宣教は無駄であるし、あなたがたの信仰も無駄です。」とコリントの信徒への手紙の中で語っています。イエスの復活は、キリスト教会の信仰において最も中心的なことがらなのです。

さて、では今日イースターの日に読まれるヨハネ福音書は復活の朝のことをどのように伝えているでしょうか？

金曜日（１日目）、十字架の上で亡くなられたイエスは、アリマタヤのヨセフの墓に葬られました。安息日である土曜日（２日目）には、じっとしていなければいけないので、墓に行くことはできません。そして日曜日（３日目）になり、朝早く墓にでかけます。「週の初めの日、朝早く、まだ暗い内に」と書いてあります。夜が明けるのを待ちきれない様子が感じられます。ヨハネは最初に墓に出かけて行ったのはマグダラのマリアだと書いています。しかしマリアが見つけたのは空っぽの墓でした。マリアは、墓が空っぽなのを見て、ペトロとヨハネのところへ行き、「主が墓から取り去られました。どこに置かれているのか、わたしたちにはわかりません。」と告げました。

この前半部分を直訳すると「人々が主を墓から取り去った。」というふうになります。イエスの体は確かに墓から姿を消しましたが、このことをマリアは神の業だとは理解していないのです。マリアの言葉を聞いたペトロとヨハネも空っぽの墓を見ました。ヨハネは見て、信じた。と書かれています。しかし、それは復活したことを信じたのではなく、イエスの遺体がそこにないことを見て分かったというだけのことです。彼らは、イエスが復活されることになっているという聖書の言葉をまだ理解していないからです。

復活の日の朝、マリアをはじめとする女性達はイエスを求めて墓に行きましたが、彼らはイエスの遺体に、つまり死んだイエスに関心がありました。そこに空っぽの墓があっても、イエスが復活したことはすぐには分からなかったのです。

１１節からはマグダラのマリアの前に復活したイエスが現れたことが書かれています。最初、マリアはイエスを見ているのに、それがイエスだと分かりませんでした。イエスのことを園丁だと思って「あなたがあの方を運び去ったのでしたら、どこに置いたのか教えてください。わたしが、あの方を引き取ります。」と言いました。ここにも、イエスの遺体に心が向かう姿が書かれています。

しかし、ここで変化が起こります。イエスが「マリア」と呼びかけると、マリアは「ラボニ（先生）」と応えるのです。この瞬間に、マリアにはイエスが復活したことが分かりました。イエスの復活は、イエスご自身が自らを表したことによってはじめて理解されたことだったのです。

復活を信じるというのは、ある人達から見ると奇妙なことに違いありません。しかし、今日わたしたちは、イエスの復活を信じ、イエスの復活を祝うために祈りを捧げています。それは、イエスご自身が復活の姿を私たちにあらわして下さるから出来ることです。これこそが、神の奇跡です。

私達が、イエスの復活を信じるという、神の奇跡の中にあることを感謝いたしましょう。そして、私達ひとりひとりも、聖霊の助けと導きによって、イエスの復活を知らせる者となりましょう！